

8. 市民主体の協働により、みんなで幸せを 実感できるまちに

まず、わたしたちにお声かけください ～お客様案内スタッフ事業～
あなたのまちにお出かけします ～出前トーク～
地域資源を生かしたまちづくりに向けて ～地域学セミナー～
学生にボランティア活動のきっかけを！ ～大学と社協のボランティア事業～
市民センターがつなぐ地域づくり ～上平良さくらの里整備事業～
市民主体の拠点づくりから、持続可能な地域づくりへ ～佐方市民センターの地域運営～
「協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員」に
～地域コミュニティ活動体験研修～
住民の強い気持ちが人を動かす ～宮島島内の桜・紅葉の保全活動～
自分ごととして捉える in 吉和 ～吉和支所の仕事のしかた～
移動販売で買い物支援と住民交流の創出 ～四季が丘買い物サロン～
地区の人が集う場を作る ～串戸ワイワイ土曜朝市～
コロナ禍における持続可能なまちづくり
～ICT を利用した活動支援「Zoom を使いこなそう研修」～
オンラインを活用した地域の打合せ・会議のあり方 ～廿日市市町内会連合会との連携～

まず、わたしたちにお声かけください

～ お客様案内スタッフ ～

■ 事業概要

info

廿日市市役所の1階総合案内では、市役所に来られた方が窓口や担当部署が分からないなどで、お困りになることがないように、お客様案内スタッフを配置し、優しく、丁寧に案内しています。お客様への積極的な声掛けを心がけ、ささいなことでも気軽に聞いていただける雰囲気づくりに取り組んでいます。



■ 事業の背景やきっかけ

introduction

「お客様に満足してもらうために」という市職員の思いから、平成22年度に、お客様案内スタッフは設置されました。総合案内では、1日130件くらいのお客様の接客をしていますが、お客様の待ち時間が軽減され、スムーズにそれぞれの目的を達成して帰っていただくことができるようになり、市役所のサービス向上につながっています。スタッフの人数も現在2人体制となったことで、迅速で的確なご案内ができています。



箱田 久美子さん

お客様案内スタッフ

市民課の職員・スタッフは大所帯ですが、お互いに良い関係です。本当は何でもわかっていた方がいいのですが、予想外の質問を頂くこともあります。せっかく来てくださったので、「わかりません。」という一言でお帰りいただかないよう、できる限り調べてお答えするようにしています。また、お客様によっては、広島弁で対応した方が親しみやすいこともあるなど、話し方の工夫にも心がけています。毎日「ありがとう。」と声をかけてくださるお客様がいらっしゃるの、とてもやりがいがあります。



小谷 裕子さん

自治振興部 市民課

お客様案内スタッフの方には、とても丁寧に仕事をしていただいています。窓口が混雑し、すぐに対応できないときも、お客様の様子を見ながら、場に合った対応をしていただき、とても助かっていますし、市役所の印象を良くしてもらっています。また、私たちは、スタッフの方々が働きやすいよう、穏やかな雰囲気を心がけ、見守っています。スタッフの方は、一目でお分かりいただけるように、声をかけやすく明るい人です。これからも親しみやすいお客様案内スタッフでいてほしいです。

■ インタビューを終えて・・・

review

市役所は、用事がなければ、市民の方は来ない場所だからこそ、お客様案内スタッフだけでなく、市職員が日頃から、ひとつひとつ丁寧な対応をすることが必要であり、市民の方と市役所の信頼関係を築く第一歩となります。これは協働で取り組む前提として大切なことです。

2012. 9. 7 取材

あなたのまちにお出かけします

～ 出前トーク ～

■ 事業概要

info

市民の皆さんに市政への理解を深めていただくことを目的に、市の職員が、市内の各所に出かけ、施策や事業について説明し、意見交換を行う事業です。「市の財政状況」「総合計画」といった市のまちづくり全般に関するものから「防災」「ごみの分別」「スポーツ施設の利用」といった暮らしに身近なものまで、各種のテーマを設定しています。



■ 事業の背景やきっかけ

introduction

市政に関する情報公開が進む中で、意見交換を伴う双方向の情報伝達を行う場、行政が持つノウハウを伝える場として、平成21年度からこの事業を始めました。寄せられた意見や提言を市政に反映することも、目的の一つです。

昨年度は、36回、1,400人あまりの皆さんに利用いただきましたが、この制度を多くの人に使ってもらい、市のまちづくりへの参加のきっかけにしてほしいです。



分権政策部 広報統計課
平井 翔太さん



山口 邦英さん

串戸地区コミュニティ自主防災

防災に関する基礎知識を得たいと思い、出前トークを利用しました。ここで「自助」について知り、実際の訓練で「共助」を知るといった流れで、住民の防災意識を高めていくのに、良い機会になりました。

総論的な話とともに、串戸地区の課題である浸水への対応や、今報道されている南海トラフの影響による津波などの話も聞けたら、より身近で関心が高まるのではないかと思います。

スペシャリストに話してもらうことは必要です。すぐに活用できそうな話を聞けて、非常に感謝しています。



松梨 輝樹さん



加美田 博さん

総務部 危機管理課

東日本大震災以降、市民の防災意識は高まっています。震災で犠牲になった人たちの思いを無駄にしないために、皆さんには備えをしてもらいたいです。

出前トークは、クイズも取り入れ、自助についてみんなに考えてもらえるよう工夫しています。限られた時間の中で、皆さんの関心のどの部分の話をするかを決めることに苦慮していますが、質問があるとうれしく思います。参加された皆さんが真剣に聞いてくださっていると感じています。



中田 健史さん

■ インタビューを終えて・・・

review

市のことを知ってもらうこと、市民のことを知ることが、互いの信頼関係をつくり協働のステージに上がる第一歩だと思います。わかりやすく、市民により伝わりやすいやり方を工夫して出前トークに臨む職員の姿を見て、こういう職員を増やすことの大切さを感じました。

2012.9.3 取材

地域資源を生かしたまちづくりに向けて

～ 地域学セミナー ～

■ 事業概要

info

地域学セミナーは、第5次総合計画の推進にあたり、本市の多様な特性を知り、地域資源を生かしたまちづくりを推進するために開催する連続公開講座です。近隣の大学や地域住民と連携し、平成24年度から26年度にかけて「観光」「まちづくり」「歴史・文化」の三つの視点から本市域を読み解きます。



■ 事業の背景やきっかけ

introduction

このセミナーは、廿日市市の地域資源に気づき、地域をあらためて見直すこと、それをきっかけに、新たに「公共」を担う人を発掘したいという思いから、第5次総合計画の策定にかかわったメンバーによって企画されました。まちや暮らしは、さまざまな地域資源が連鎖しあって成り立っており、多分野にわたる切り口から講話を行うこのセミナーは、総合計画を協働によって実現するための基礎づくりの場として位置づけています。



森保 洋之さん

広島工業大学大学院 工学系研究科

廿日市市とのご縁は深く、まちづくりのお手伝いをしたいという気持ちで、セミナーの企画を提言しました。受講者の皆さんが運営にもかかわる形に育つと、意義深いと思います。

これからは、まちづくりに多分野の視点からの知識や知恵を注ぎ込むことがますます必要になります。今後、市域の豊かな人材を生かして「大学・地域人コンソーシアム※廿日市」が形成されることを願っています。



高木 智子さん

分権政策部 総合政策課

セミナーに参加することで、身近な宝物に気づき、地域を見直すきっかけとなればと思います。

地域のいろいろな課題を解決するために、大学などの持つ専門的な知識や技術が必要な場面は、今後増えていくと考えています。このセミナーは、地域と大学などの人材をつなげる役割を担っています。

私も自分の住む地域の中で多くの人とつながり、まちづくりの仲間を増やしていきたいです。

■ インタビューを終えて・・・

review

「公共」を担う仲間として、大学を含め地域の人材を発掘しまちづくりにかかわってもらったことの大切さを、あらためて感じました。市は、自らがまちづくりに取り組むとともに、さまざまな人たちをまちづくりに巻き込みながら、その人たちのつなぎ役（コーディネーター）としても機能することが必要です。

2012.9.7取材

※コンソーシアム：二つ以上の個人、企業、団体などから成る組織。共同で何らかの目的に沿った活動を行ったり、共通の目標に向かって資源を蓄えたりする目的で結成される。

学生にボランティア活動のきっかけを！

～大学と社協のボランティア事業～

■事業概要

info

ボランティア活動はしてみたいけどよくわからない…という学生のために、地域でボランティア活動の場を提供することを目的とした事業です。

大学と廿日市市社会福祉協議会が連携し「学生ボランティア応援会議」を構成して、定期的に情報共有や課題の発見をしながら学生の力が地域の力として生きていくよう取り組んでいます。



■事業の背景やきっかけ

introduction

学生がもっと地域でボランティア活動しやすい環境と、仕組みを大学と社会福祉協議会で作ってほしいと、平成25年度、日本赤十字広島看護大学、山陽女子短期大学、広島工業大学の3校と社会福祉協議会が連携しました。ボランティア初心者の学生のために入門講座を開いたり、大学では難しいボランティア登録窓口設置を社協が担ったりしました。その結果各大学から学生がボランティア活動に積極的に参加するようになりました。



坂東 克彦さん

広島工業大学 学生

この事業に参加することで価値観も年齢も違う人と接することができ、視野が広がりました。また、事業を通して、責任ややりがいを感じることができ、行動力もついたと思います。

ボランティア活動で、大学生活が有意義なものとなり、就職活動に生かすこともできました。より多くの学生にこの事業に参加してほしいので、今後はもっと周囲に声かけをし、情報発信することで、自分たち若い世代がしっかりと動いていきたいと思っています。



井上 美代子さん

廿日市市社会福祉協議会 はつかいちボランティアセンター

私たちは、ボランティアを必要としている団体と大学とのつなぎ役をしています。学生さんとの応援会議では、学生さんの生の声を聞くことができているので良い機会になっています。

ボランティア活動はしたい側と、してほしい側の気持ちがあってはじめて成立するので、双方が「よかった、楽しかった」と言える関係が大切だと思います。これからは学生さんが主体となって活動し、この事業を盛り上げてくれればよいと思っています。

■インタビューを終えて・・・

review

実際に地域のために活動してみると、自分たちが住む地域の良いところを新たに発見することができると感じます。地域の関わりが薄くなっている今、学生と地域が話し合いをしながら活動するこの取り組みは人の輪を広げ、信頼関係を築くことにもつながるので、まちづくりを進めていく上で欠かせないものであると感じました。 2014.9.10 インターンシップ実習生取材

市民センターがつなぐ地域づくり

～ 上平良さくらの里整備事業 ～

■ 事業概要

info

平良地区の陽光台団地の開発残地を利用し、地域の憩いの場としてさくら並木の遊歩道を整備しようという取組です。平良地区市有林管理委員会が負担する整備資金をもとに、地区コミュニティ、市（市民センター、維持管理課）、廿日市造園緑化建設業協会、PTA、小学校などが連携し、平成25年春の完成をめざして整備に取り組んでいます。



■ 事業の背景やきっかけ

introduction

市有林管理委員会の「西広島バイパス用地の買収金を地域の役に立てたい」という思いをきっかけに、かつて速谷神社の参道として可愛川下流まで続いていたさくら並木を復活し憩いの場にしよう、この取組は始まりました。平成23年9月、市有林管理委員会、コミュニティ、市の三者で協定を交わし、整備と維持管理における各々の役割分担を明記し、相互に連携し、協働して事業に取り組んでいます。



折本 善政さん

平良地区市有林管理委員会 平良地区コミュニティ

管理委員会が市にお金を寄付し、市だけで整備したのでは、地域がこんなに盛り上がることはなかったと思います。

整備予定地の下刈りは人海戦術で、13日にわたる作業に、のべ683人に参加してもらいました。今後も、過度の負担がかからないよう工夫して、息の長い取組として続けたいです。平良地区では市民センターがコミュニティなどの事務局的な役割も果たしてくださり、私たちの活動のキーステーションになっています。



田中 和雄さん
三宅 英俊さん



茶村 勝興さん

平良市民センター 建設部 維持管理課

市民センターは、コミュニティや各団体とのつなぎ役としてかかわっています。将来、このさくらの里が地域の宝となり、地域の一体感の醸成を育むものになればと願っています。

維持管理課は、造園緑化建設業協会や補助金のメニューを紹介したり、事業の進め方を提案するなど協力しています。今回で完成ではなく、少しずつ作り続けることで、新たな力を巻き込みながら、進めるとよいと思います。



衆樹 泰文さん
沼田 大輔さん

■ インタビューを終えて・・・

review

この取組は、市民センターが地域づくりや課題解決の拠点としてうまく機能している事例だと思えます。ふだんから、地域の人との関係、市役所各課との関係などを築きながら、必要なときに、人や情報をコーディネートした結果が、地域の憩いの場として形になりつつあります。

2012. 9. 24 取材

市民主体の拠点づくりから、持続可能な地域づくりへ ～ 佐方市民センターの地域運営 ～

■ 事業概要

info

平成 24 年度から佐方市民センターの管理運営は、佐方地区の住民自治組織である佐方アイラブ自治会において行われています。今までよりも、多くの住民の方に地域づくりに参加してもらえよう、地区の実情に合った独自の地域づくりの推進や拠点施設としての機能を発揮させていきます。



■ 事業の背景やきっかけ

introduction

市では、公民館を市民センターと位置付け、地域づくりの拠点施設として、持続可能な地域における自治を築けるよう、その役割を發揮していくことを目標にしています。“地域にできることは地域で”という組織理念のもと活動する佐方アイラブ自治会は、地域運営のモデルとして取り組んでいますが、移行時は、市と同自治会で、約2年、30回余りの話し合いの機会を持ち、互いの思いを共有しながら進めてきたため、スムーズなスタートが切れています。



重村 泰夫さん

佐方アイラブ自治会

地域運営に移行するまでの市からの指導やバックアップに感謝しています。

市からの情報は、市の職員の方が必要に応じて提供してくれています。

地域運営に移行したことで、仕事量は多くなりましたが、その分、

知識も増えたので、地域の皆さんに発信していきたいです。平成 24 年 6 月から利用申請受付時間を延長したことで、新しい利用者の発掘にもつながりました。今後も新たな地域の人に地域づくりの拠点としての市民センターを知ってもらう機会をつくっていきます。



畑尻 真理子さん



木下 英治さん

自治振興部 自治振興課

市から地域運営に移行しましたが、講座の開催や、施設の利用管理など、今までどおりのサービスを提供しており、順調なスタートに安心しています。今後地域住民と一体となって、地域運営のメリットを最大限に生かした取組を期待しています。スタッフさんの仕事量が増えていますが、これからは、情報提供や、労務・経理関係など事務的な部分のサポートをしながら、他地区・他地域の市民センターに向けて、魅力あふれる佐方地区の地域運営について広めていきたいです。



船本 雅美さん

■ インタビューを終えて・・・

review

地域のことを一番よくわかっている、地域の人たちで市民センターを運営することで、行政の立場では、なかなか手が届かないことにも、柔軟に取り組むことができます。今後、魅力ある地域運営をさらに広げていくためにも、市のサポートが重要となります。

2012. 8. 30 取材

「協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員」に ～ 地域コミュニティ活動体験研修 ～

■事業概要

info

市民主体の地域づくり活動を理解し、協働によるまちづくりの意識を持つ職員を育成するため、「地域コミュニティ活動体験研修」をスタートしました。初年度である平成25年度は、試行的に市役所近郊の佐方地区、廿日市地区、平良地区のコミュニティ推進団体に採用後3年目の職員を研修生として受け入れていただき、さまざまな取組を体験しています。



■事業の背景やきっかけ

introduction

廿日市市協働によるまちづくり基本条例では「市は、協働によるまちづくりの担い手としてふさわしい職員を育成します」と定めています。特に、これからの廿日市市のまちづくりを担う若手職員には、地域の資源を知り、思いを肌で感じてほしい。一方地域には地域活動に関わる若者が少ないという悩みも…。こうした目的を双方が共有するため「パートナーシップ協定」を締結、まちづくりに欠かせない「人づくり」を市と地域が協働で取り組むという新しい試みです。



竹中久人さん

廿日市地区まちづくり協議会

この研修がきっかけで、地域の実態を知ってもらえました。地域と研修生で「あーでもない、こーでもない」というやり取りが出来てよかったです。私たちは若い人の新しい発想が欲しい。だから、会議では遠慮せずアイデアを言ってほしいと思います。私たちの地区にかかわりをもってくれた研修生が、これから先もかかわり続けてくれるとうれしいです。まちをよりよくするために、職員が持っているスキルを生かして「コーディネーター役」となってほしいと思います。



佐々木正臣さん

総務部 人事課

今回の地域コミュニティ活動体験研修は、自主的に参加する研修でしたが、対象職員29人のうち、22人が参加しました。研修生はみんな頑張ってくれているようですが、受け入れ3地区のみなさんの支えや、市民センターがつなぎ役になってくれているようです。これらの取組を通して「協働志向の職員」を一人でも多く育成できればと思っています。「コーディネーター」というスキルは座学では身につけません。市民の人たちと一緒に汗を流していきたいという気持ちがあります。

■インタビューを終えて・・・

review

少子高齢化が進んで行く中、若い人たちが率先して地域の中心に立ち、活動していくことが必要だと感じました。また、市民と職員がお互いに汗を流し合い、話し合い、分かり合っていくことが、地域の活性化につながっていく。これが廿日市市だけでなく日本全体に「協働」が広がるといいなと思いました。

2013. 8. 23 インターンシップ実習生取材

住民の強い気持ちが人を動かす

～ 宮島島内の桜・紅葉の保全活動 ～

■ 事業概要

info

多くの人に愛され誇れる名所づくりをめざし、宮島さくら・もみじの会は、宮島島内の桜と紅葉の育成管理を行っています。樹木の専門家や地元のコミュニティ推進協議会などと協力して、植樹、施肥、土壌改良、り病枝・枯枝除去、害虫駆除などの作業を年5～6回実施するとともに、定期的に育成状況の調査も行っており、毎年、美しい桜と紅葉が、宮島を訪れる人たちを楽しませてくれます。



■ 事業の背景やきっかけ

introduction

観光客が多く訪れる宮島の桜や紅葉は、すぐそばまでたくさんの方が行き交い地表が踏み固められるため、栄養や酸素が根まで十分に行き渡りません。放っておけば木が育たず老化も進む一方で、平成20年ごろは危機的状態でした。この状況を何とかしようと、住民をはじめとする有志が集まり樹木を守る活動を始めました。活動当初から、広島県緑化センターの正本良忠さんが無償で技術指導をされてこられ、現在は、息子の正本大さん（みずえ緑地株式会社）が引き継ぎ、作業の際には技術指導をされています。年々目に見えて樹木の状態がよくなっています。



宮島さくら・もみじの会
三次 正昭さん

宮島さくら・もみじの会 みずえ緑地株式会社

三次) 故・正本先生はスタート時から、「何とかしないといけない、このまま放っておくと全部駄目になる、早い方がいいから」と無償で技術指導を引き受けていただきました。



みずえ緑地株
正本 大さん

宮島支所の職員の方も作業に参加していただいています。現場に来ることで互いにコミュニケーションがとれるので、きっと仕事に役立っているはずですよ。

正本) こうした活動は、散逸してなくなってしまいがちです。特に樹木の維持管理はすぐに成果が出せないため、継続は結構大変です。しかし、宮島の皆さんは、三次さんをはじめ住民の気持ちがとても強いので継続した活動ができていると感じています。

宮島地域コミュニティ推進協議会事務局 (宮島支所地域づくりグループ)

コミュニティ推進協議会では、環境美化・保全の観点から生活・環境部会事業として、肥料や腐葉土の購入費用の補助をするなど活動を支援しています。参加できる活動日の午前中はブログの取材も兼ねて、作業を手伝っています。樹木のことなど様々なことを教えてもらえ、とても勉強になります。



北野 寿枝さん

文化と自然が共存する美しい宮島の景観を楽しみに、多くの人々が訪れていますが、この景観が守られているのは意欲的な皆さんによる地道な活動があるからだということを実感しています。引き続き、感謝の心とともにブログで活動状況の発信に力を入れていきます。

■ インタビューを終えて・・・

review

宮島さくら・もみじの会は穴を掘ったり植えたり施肥などの手作業、みずえ緑地株式会社は技術的な指導やチェーンソーなどの機械作業、コミュニティ推進協議会事務局は肥料・腐葉土などの施肥に必要な費用の一部負担とこの活動の啓発、そして当日の手伝い。それぞれが役割を受け持ちながら一緒に汗を流して活動されていました。この一緒に汗を流すことこそが、人と人を近づけ結びつけて、継続した活動につながっているのではないかと感じました。 2016. 2. 18 取材

自分ごととして捉える in 吉和

～吉和支所の仕事のしかた～

■実践事例

info

吉和支所では、地域の方（協働相手）と同じ感覚を持って、自分ごととして捉えて業務に取り組んでいます。吉和文化祭、すい仙まつり、吉和神楽競演大会、よしわ夏まつりなどのイベントを通じて、地域と行政がお互いに信頼し合い、それぞれができることを行いながら、一緒にまちづくりを進めています。



■実践内容

main

1. 吉和支所の取り組み

吉和地域では、少子高齢化が進んだことにより、地域のイベントが人手不足で、協力が必要な状況にありました。吉和地域では、吉和支所をはじめとして保育園や学校なども地域内の各機関・団体と連携して、いろいろな事業や行事（吉和市民センターまつり、吉和おさんぼギャラリーなど）を行い、職員が積極的に地域住民の人と一緒に事業を盛り上げています。

2. なぜ協働によるまちづくりをするのか？

吉和文化祭の開催を例にあげます。これは市民センターまつりの側面もありながら、保育園の発表や小中学生によるやまびこ太鼓の演奏、神楽の上演、社会福祉法人のイベント、着ぐるみショーも一緒に行っており、吉和地域に関わる人と吉和地域の団体が一緒に事業を作り上げています。この文化祭を通じて、お互いの理解を深めたり、それまで知らなかった地域の魅力に気づいたりしています。



このように、市民と行政と一緒に考え、行動することによって、地域内の信頼関係が築け、住みやすい地域社会をつくることにつながっていくと思います。

3. 結果として

吉和地域では、こうした取り組みを進めることによって、地域経営の考え方が促進し、共助が推進されつつあると思います。例えば、イベント企画などを行う地域団体「吉和げんき村」の設立、吉和ルバーブソースの商品化、地域外から多くの人を訪れる吉和夏祭りの開催などがあげられます。吉和では、市民が地域を盛り上げ、地域づくり活動が盛んに行われています。

■協働によるまちづくりにおいて大切だと思うことは？

review

地域をしっかりと知ることだと思います。行事、事業で地域の頑張りを知っているからこそ、地域の思いにも共感できると思えるようになりますし、地域の行事、事業に顔を出していき、信頼していただけるようになります。

地域と行政がお互いに信頼し合い、それぞれができることを行い、一緒にまちづくりを進めていく。この信頼関係こそが、協働にとって大切なのではないかと思います。

2020. 2. 14 研修発表表から

移動販売で買い物支援と住民交流の創出

～四季が丘買い物サロン～

■ 事業概要

info

四季が丘地区では、商業施設の空き店舗で週に2回、マックスバリュ西日本による移動販売と地区社会福祉協議会による交流サロンが行われています。移動販売では小売り店の商品も並ぶほか、月に2回、もみじ銀行の移動店舗も合わせて営業をしています。また、空き店舗は近鉄不動産からの提供を受け、サロンはボランティアが運営しています。毎回、多くの住民が通い、四季が丘に活気を生んでいます。



■ 事業の背景やきっかけ

introduction

時代の経過とともに、地区から金融機関や商業施設内のテナントが撤退し、平成24年には唯一のスーパーマーケットも撤退。その頃、地区社会福祉協議会が住民同士の交流目的に、ふれあいサロンを運営していたので、さらに「地域に買い物ができる場所を」と買い物支援の思いから、町内会連合会を始めとする住民主導でコンビニエンスストアの誘致に動く。その後、広電ストアが移動販売の実証実験を行い、令和元年6月から事業継承したマックスバリュ西日本による移動販売が正式に開始、同年7月からは、買い物に訪れた住民が交流できる場「四季が丘買い物サロン」がオープンしました。



藤田 章さん

四季が丘地区町内会連合会

お店の撤退で、まちが寂れると思いました。お陰で買い物サロンは盛況です。これは、日ごろの住民同士のつながりがあることが大きいからです。買い物サロンには他地域からの見学も多く、参考にさせていただいています。今、カフェなどの事業展開についての要望が上がっています。他にも様々な活動をしていることもあってできていませんが、実現に向けてこれからも地域ぐるみでの活動を続けていきたいです。

自治振興部 地域政策課

買い物サロンの立ち上げに当たり、事業計画の作成や業者との調整などは、市役所の得意分野なので、ノウハウを活かして支援させていただきました。部屋の改修作業も一緒に行いました。私たち職員は、地域のお役に立つことを心掛け、これからも務めていきます。



瀬戸 将央さん



向井 恵子さん

四季が丘地区社会福祉協議会

広い部屋を借りて、買い物サロンができるようになりました。サロンを運営していく中で重要なことは、場所ではないかと考えますが、四季が丘地区にはもともと人のつながりがあったからこそ、サロンが成功し、賑わっているのだと思います。これからもサロンに限らず、地区内の人のつながりを育んでいきたいです。

■ インタビューを終えて・・・

review

地域の課題を地域の人たちが主体的に、ビジネスの手法を用いて解決するコミュニティビジネスの事例と捉えられます。住民主導で誘致した移動販売だからこそ、地域住民が安心して買い物できていると感じました。サロンでの買い物で住民が元気になり、地域が活性化している場面を見ることができました。

2020.11.4・11.18取材

地区の人が集う場を作る ～串戸ワイワイ土曜朝市～

■ 事業概要

info

串戸地区自治協議会は、地区の人が育てた新鮮な野菜や果物などを販売する朝市を市民センターで開催しています。朝市当日は大研修室が開放されてサロンにもなり、毎回100人前後が訪れて、賑わいを見せています。6年目になる令和2年の途中からは、月1回から月2回の開催に変更し、ますます盛り上がっています。



■ 事業の背景やきっかけ

introduction

串戸市民センターは、交通アクセスの良さから多くの自主活動クラブに利用されていましたが、活動者の大部分が串戸地区以外の人で、串戸地区の人が市民センターを利用することはほとんどありませんでした。そこで、串戸地区自治協議会は、地区の人が気軽に足を運び、集える場を市民センターに作ろうと、平成27年から土曜日の朝市を開始しました。



市里尚弘さん

串戸地区自治協議会

串戸地区自治協議会は、平成27年度から市民センターの指定管理者となりましたが、その前から地区の人が集う場を作りたいと思っていました。1回きりのイベントよりも息の長い企画ができればと、この朝市を考えました。朝市は、出店者さんの後押しもあって、10月から第2、第4土曜日の月2回開催になりました。地区の方に喜んでいただけるのがありがたく、顔見知りが増えました。がちがちではなく、ゆるやかなつながりも大事にして、これからも串戸地区の人がメリットを享受できる市民センターにしていきたいです。



松本雅知さん

串戸市民センター

これまでの市民センターは、自主活動クラブが中心でした。地区の人に利用される市民センターが理想と考えていますので、朝市を始めとした地区の人が関わるような事業を実施しています。市民センターの一番の役割は「つなぐ」ことですので、これからも皆さんの「学び」や「集い」が広がっていくために、「つながり」を大切に活動を進めていきます。さらに、子どもを始め各世代の居場所づくりにも取り組みたいと思っています。

■ インタビューを終えて・・・

review

地区住民が集う場を作ろうと始められた「朝市」。今年で6年目を迎えられ、地区の行事として根付いているようです。そして、串戸地区のための串戸市民センターでありたいとの思いのもと、運営されている様子を知ることができました。

2020.11.12・11.17 取材



コロナ禍における持続可能なまちづくり ICT を利用した活動支援「Zoom を使いこなそう研修」

■実践事例

info

コロナ禍においても持続可能なまちづくりをしていくためには、ICT を利用した活動が重要です。そこで、まちづくり活動団体が Zoom を利用した会議等が開催出来るようになるため、「Zoom 研修会」を開催しました。オンライン開催のため、開催当日までに、Zoom 会議の参加の仕方を協働推進課でフォローし、練習したうえで接続してもらいました。



■実践内容

main

1. コロナ禍だからこそ

市民活動センターネットワーク登録団体を対象に案内をしました。まん延防止重点措置期間中、集まって研修会をすることが出来ません。パソコン操作等を丁寧に支援したかったのですが、施設は利用停止。開催当日までに、Zoom 会議の参加の仕方を協働推進課でフォローしながら、テスト接続してもらいました。なにより Zoom アプリをインストールするところからです。



2. 協働による講座の企画・運営

講座の企画にあたり、FM はつかいちにはチラシを作成していただき、講師の川本真督（かわもとまさよし）さんと共に企画会議を重ね、川本さんにはテキストの作成もしていただきました。既に、市民センター職員向けの Zoom 研修を実施されていたことから、内容をまちづくり活動団体向けに変更。本当に初めての方も数名、何度か会議に参加されたことがある方が数名でした。話を聞くだけでなく、実際に操作しながらの研修であつという間の90分でした。講座に参加出来なかったという意見も複数いただいたので、2回目の講座を企画し、講師には、黒木真由（くろきまゆ）さんをお願いしました。



3. オンライン会議開催に向けた市民活動センターのサポート

協働推進課では、市民活動センター内で開催するオンライン会議を実施するための、さまざまなサポートをおこなっています。

- ①機器の貸出・・・パソコンやプロジェクターなどオンライン会議用の機器について、無償で貸出しをおこなっています。
- ②Zoom のお試し利用・・・協働推進課所有の Zoom アカウントを利用して、オンライン会議開催のサポートをおこなっています。



■協働によるまちづくりにおいて大切だと思うことは？

review

新しい生活様式のひとつがオンラインによる打合せ。今回は Zoom の使い方を取り上げました。テキストは、市のホームページでダウンロード出来ます。ネットワーク環境がない方は、市民活動センターでは全館 Wifi 化していますので、気軽にインターネットにつながることが出来ます。ICT を活用することで、新たなつながりが広がることは、持続可能なまちづくりへの大きな成果です。

2021.11.30, 2022.1.27 研修



オンラインを活用した地域の打合せ・会議のあり方 ～廿日市市町内会連合会との連携～

■実践事例

info

コロナ禍において、事業企画をしては中止・延期を繰り返すまちづくり活動団体。集まることが出来ない中で、どうやって取組みを進めるか、相談を多数受けています。まん延防止重点措置期間の中で事業を実施するためには、オンライン開催しかありません。オンラインの活用で踏み出せない団体を後押しし、新たな活動のきっかけとなるよう、Zoomを活用した研修会を開催しました。



■実践内容



main

1. 廿日市市町内会連合会の取組み

コロナ禍で活動の制限を余儀なくされている中で、事業企画をしては延期、中止を繰り返す日々。施設が使用出来ない中で「三役会議も実施出来ない」と協働推進課へ相談がありました。そこで、Zoomを活用した三役会議の運営を支援し、何度かオンライン会議を重ねる中で、事業が出来ないのなら研修会は出来ないか、とやっと立ち上げた企画でした。

2. 集まることが出来ない中で、どうやって打合せをしたらいいのか？

会議や打合せが出来なくても、電話やメールによるやり取りはされていました。そうした中で総会を書面で開催せざるを得なかったり、Zoomによる会議や研修の案内が来たり、協働推進課には、そうした困りごとの相談を多く受けていました。



そこで、町内会連合会の三役会で、団体の皆さんの困りごとを研修テーマに選び、打合せをオンラインとする工夫をされている団体の取組みを発表してもらうこととしました。好事例の発表ではなく、これなら出来そうかもと、きっかけづくりになる取組みの共有です。Zoomは無理でもLINEならみんな使っているはずですから…。



3. オンラインを活用した取組み紹介

- ★地御前地区自治会 会長 吉本恒雄さん「Zoomの活用例」
ホームページ立上げ、三役会や会議のやり方、市民センターでのZoom体験会開催
- ★深江万年青会 会長 杉山義彦さん 「グループLINEを使った取組み」
役員間の連絡にLINEを活用し、会議の連絡や情報共有に活用
- ★宮内コミュニティづくり協議会 会長 田村秀穂さん
「LINEのチャットやZoomを使った打合せ」



■協働によるまちづくりにおいて大切だと思うことは？

review

コロナ禍による会議や打合せが出来ない、という新たな課題。まちづくり活動団体が困っていることを解決するために出来ることを探して始まった企画。事例を聞くだけでなく、他の団体の状況を聞いたり、困りごとを共有したり。参加者は27名！チャレンジが嬉しいです。

出来ない、と初めからあきらめるのではなく、やってみよう！という気持ちになる人を増やしていく、小さなきっかけづくりを積み重ねることが大切だと思います。 2022.2.22 研修から